

第1回第2次淡路市立図書館基本計画策定検討会会議録

【日時】令和3年6月30日(水) 14:00～15:30

【場所】淡路市立津名図書館 活動室 L

【出席者】・委員：原田会長・堺野副会長・嶋田委員・新谷委員・那倉委員

砂川委員・関委員、片岡委員・川上委員

・事務局：摺臼津名図書館長・細川東浦図書館長・延安社会教育課主査

津名図書館：田村、植野、砂河

東浦図書館：山口、竹谷、森

アカデミック・リソース・ガイド 岡本真氏

【傍聴者】なし

1、開会

2、委嘱状交付

3、正副会長の選任について

委員の互選により、会長：原田委員 副会長：堺野委員

会長あいさつ

原田会長) 淡路の図書館と淡路の景観や歴史のつながりを常々考えておりました。歴史がある淡路市にあり、その歴史をどうつないでいくのかをこの場で話し合えたらと思います。新しいことを積極的に取りこむこと、人と人との交流を大切にすることが大事です。豊かで内容のある基本計画を作っていきたいと思います。

4、報告及び協議事項

事務局) これまでの経緯等について 資料 P1～P11

事務局) 今後のスケジュールについて 資料 P14

嶋田委員) 淡路市の経緯を見ますと住民参加で図書館をつくりあげてきていることがわかります。瀬戸内市民図書館時代、多様な意見があることを良しとし、積み上げてきた計画が本当にいいのかという疑問の声を大事にしてきました。その中で出たご意見を真摯に取り入れていき、また運営をしながら利用者からの声も取り入れるべきものは取り入れていくことに留意してきました。計画策定のプロセスと実際の運営を一貫して行い、計画実行、そしてそれがうまくいっているのか、ということ、計画策定が終わってからも、皆様からご意見をいただくと、

図書館としても喜ばれると思います。

新谷委員) 昨年度何度かワークショップを開催しておりましたが、その結果や意見を計画へどう反映されるのですか。今年度の主な事業として、市民協働による図書館運営についてのワークショップ開催ということですが、サポーターは募集するのか、すでにおられるのですか。展示コーナーがありますが、どのように展示を進めていかれるのでしょうか。

細川館長) 昨年度の市民ワークショップは、一般公募の市民と図書館職員で行いました。主体性をもって市民の方が図書館に参画してもらう機運作りをベースに行ったものです。その中では、多様な意見があり、それを反映していくには、市民の力がなければいけないということを感じ、結論としては行政主導ではなく市民協働による図書館運営を目指すということとなりました。サポーターの募集については、新図書館開館のタイミングで募集はしましたが、募集以前から図書館に関わりたい方からの声がどんどんあがっています。昔からのサポーターさんから、何をしたいかわからないが関わりたいと言ってくくださるサポーターさんまで、約20名おります。図書館側もどのように両輪で運営していけばよいのか、つかみ切れていない部分もありますので、安定した運営を進めるために、今年度ワークショップを行う予定です。

摺臼館長) 人・知識・情報との出会いの場をコンセプトに運営をしています。図書エリアに展示ケースを設けて、企画も考えながら様々な情報発信をしていく予定です。どのように企画していくかについては課題が残っていますが、テーマをもって企画展示をしていきたいと思います。交流エントランスの展示エリアは、一般貸出もしています。ハード面は整っていますので、今後ニーズをつかみながらやっていきたいと思っています。

原田会長) 図書館は貸出だけでなく、情報の交換の場なので、大型サイネージ、サポータールーム。様々な展示ケースも非常によいと思います。

関委員) お母さん方からは、新しい図書館になって、小さな遊具がある、コインロッカーで荷物を預けて子どもと本を探ことができ、交流エントランスは声を出してもよいということで、非常に好評です。細部にわたって考えている図書館だと思うので、学生もこれだけ集っているのだと思います。サポーターさんが増えて、いろんな角度から刺激を与えてくれるのかなと楽しみにしています。

原田会長) 図書館の応援団ができて、図書館を応援しようという気持ちで加わっていただくと、様々なことができるようになると思います。

那倉委員) 基本計画は全体を網羅した方がいいのかなと思いつつも、どこか重点を絞り特色を出すことも考えているのか、教えてください。

摺臼館長) 市民の方が活動できるきっかけを作っていけたらと思いますが、それを基本計画には大きく反映し、細かい取り組みについては別のところで議論しながらや

っていくのもいいかなと思っています。一方で、皆様方からの意見の中でみんな
でやっていこうというものは、全面的に押し出してもいいかと思っています。

砂川委員) 現在の基本計画の仕分け作業の際に、類似都市の比較の項目について×をしま
した。他の都市と比較するのではなく、淡路市独自の地域の文化を活かした図書
館作りをしたらいいという思いがあります。

川上委員) 若い世代は本をあまり読まず、勉強のために図書館に行くことが多いと思いま
す。しゃべってもいいラーニングコモンズみたいなものがあれば、より若い世代
も図書館へ行くとします。

片岡委員) 市民を呼び込むということ言えば、自分の子供が何かしているところを見たい
お母さん方が多いと思うので、本というよりは自分の子供目当てのお母さん
方をどう呼び込むのか考えたらいいと思います。他市では、図書館が観光施設に
なっていて全国から人を呼び込んでいるところもあります。淡路市の図書館も
そのような図書館になれると思うので、そのためにはどうしたらいいのかとい
うことをみんなで考えるといいと思います。淡路市独自のもので、ここだから学
べるものがあれば、修学旅行生が集まるということもあると思います。

堺野副会長) スケジュールについては、今回は素案の項目を示していただき、それをみん
なで議論するということですか？

細川館長) 今日いただいた意見や昨年度のワークショップの意見を考慮して、骨格部分の
案を事務局から提示したいと思います。それに対するご意見をいただけたらと
思います。2回目の会議より事前にお送りしたいと思います。

新谷委員) 博物館での経験を申し上げますと、博物館でも市民参加を目指し工夫していま
す。通常展覧会では学芸員が企画しますが、コレクションを持っている市民に展
示室を貸出すことがあります。図書館の展示コーナーでも同様のことが可能で、
その方々はその分野を深く掘り下げておられるので、図書館としてもレファレ
ンスの一環としてその方々に聞くこともできると思います。また、同じ趣味の方
が見に来られるということもあると思いますので、図書館利用者の掘り起こし
もできるのではないかと思います。

細川館長) 東浦図書館ではすでに市民の方による展示コーナーをしており、企画立案から
市民の方に参加していただいています。

原田会長) 趣味が高じて様々な専門家がいます。その方々とのタイアップ、ネットワーク
作りが重要だと思います。

堺野副会長) 尼崎では夏休みの期間、市民の方が自分で講座を開くという取り組みが人気
だそうです。自分の知識を共有したい方などに参加してもらおうといいと思いま
す。

新谷委員) 博物館のボランティア活動には、市民が博物館を拠点にグループで学習を行い、
その成果を展示したり誰かに教えるということがあります。そうした活動自体

が博物館の活性化につながります。図書館のサポーター制度も、生涯学習の施設としての図書館を拠点に同様ことができればよいのではないかと思います。

細川館長) サポーターの受け皿としての図書館ではなく、図書館職員と対等で両輪でやっていくためのマネジメント力が図書館職員にまだ不足しているので、ワークショップで身に着けていきたいと思います。

原田会長) 図書館職員にも限りはありますので、できる人に働きかけていくのが大事だと思います。

細川館長) 公民館機能が図書館に移ってきつつあるようです。

原田会長) 同じ社会教育施設として、問題ないと思います。

摺臼館長) 生涯学習のビジョンとしては共通するところがありますので、図書館は図書館として、地域それぞれの特色やターゲットを考えながらやっていったらと思います。当初の計画と、現状を確認していただいて、新しい計画に向けてお示しただけたらと思います。

細川館長) まだ開館して3か月なので、これが継続していくのかまた見ていきたいと思います。

新谷委員) 市民協働に関してですが、図書館と地域との連携によって人が来やすくなると思いますが、そのあたりは何か考えておられますか。

摺臼館長) 津名図書館については、しづかホールがあり、民間の会社が指定管理しています。まず最初の足掛かりとして、その契約の中で、図書館との相乗効果が生まれるような企画をお願いしています。今後は、図書館側からも投げかけて、情報共有しながらやっていきたいと思います。

細川館長) まず地域にどのような方がいるのか知るためにも、異業種の集まりとしてパートナーシップミーティングを今年度したいと思います。

片岡委員) 本を自費で出版しましたが、図書館に置いていただくことは可能ですか。

細川館長) ぜひ、何らかの形で収集保存させていただけたらと思います。

原田会長) また、そういった方がいることを発信していくことが大事です。

細川館長) 成人式の日、しづかホールの式典の隙間で、振袖で津名図書館内でファッションショーをできたらと思います。

堺野委員) 東浦図書館で園芸体験教室や、学生はSDGs関連のイベントを夏休みに子供向けに開催予定です。そのようなコラボレーションをしていけたらと思います。まだまだできることはたくさんあります。

細川館長) こういったイベントは、声掛けをしないと申し込みがなかったのが、今はニーズをうまく把握し、意見を出し合って進めていくと、これだけ実りあるものになるのだと感じています。

5、閉会のあいさつ

堺野副会長) 昨年度ワークショップが開催された中でも、市民が参加しいろいろな意見が出されました。その際に、岡本氏から「掟」を自分たちで決めていくことが大切との話があり、図書館の掟をみんなで作るというイベントが行われました。私が通っていた高校では、校則がなく、自分たちで決める自由と自律を身をもって体験しました。図書館でも決まりがあると受け身になってしまいますが、自分たちで決められということを図書館で発信していけたらと思います。津名図書館の愛称はミヨットで、好奇心を表しているのかなと感じ、「図書館でこういうことをしてみよっか」と周りを誘っていくことが協働と思います。引き続きよろしくをお願いします。

〈関連ファイル〉

- ・配布資料